



政友会 大杉 吉包 議員

- 1 本市の農業施策について
 - (1) 農業の現状
 - (2) 既存農家の育成
 - (3) 新規就農者の受入れ
 - (4) 水田農業の現状と将来について
 - (5) 畑作農業の現状と将来について

質問1(1) 農業の現状。

答弁1(1) 農業所得の激減、農業従事者の減少、高齢化などの厳しい状況にある。

質問1(2) 既存農家の育成。

答弁1(2) 農業者にとって魅力があり誇りの持てる、儲かる農業が行えるよう様々な角度から進める。

質問1(3) 新規就農者の受入れ。

答弁1(3) 新規就農者に対し給付金制度があり、準備型は2年間で年150万円。経営開始型は5年間で年150万円市を通じて支給して支援する。

質問1(4) 水田農業の現状と将来について。

答弁1(4) 平成22年度より実施された戸別所得補償制度に市内で1004名の方が制度に参加されたのをはじめ、市の単独助成をもうけて規模拡大をはかり、良質米生産を指導する。

質問1(5) 畑作農業の現状と将来について。

答弁1(5) 厳しい状況での花木、お茶の支援、また野菜についても減農薬、有機栽培など付加価値の高い野菜栽培を推進し、直売所施設活用による地産地消を推進する。



リベラル鈴鹿 市川 哲夫 議員

- 1 健康な身体づくりについて
- 2 小動物の作物対策について

質問1(1) 健康な身体づくりへの取り組み状況は。

答弁1(1) 平成23年3月に策定をした「鈴鹿市健康づくり計画」では、生活習慣をキーワードとして捉え、疾病の発生を未然に防ぐ一次予防と疾病の早期発見、早期治療を行う二次予防など様々な事業に取り組んでいる。

質問1(2) 身体づくりに対する褒賞制度について。

答弁1(2) 国民健康保険事業に関する褒賞制度として平成16年度まで健康世帯表彰を実施していたが、表彰の効果等の検討を重ねた結果、予防に重点を置いた

検診事業に特化する形で平成17年度以降表彰を廃止した経緯があり、今後は特定検診の受診、保健指導の利用により市民の健康への意識を高め、健康で暮らせるまちづくりに努めたい。

質問2 これまでの対策と今後の対応について。

答弁2 獣害対策の基本を集落ぐるみで実施する獣害につよい地域づくりと考えており、地域で実施する取り組みを支援するため、被害地区での獣害対策の講習会や研修会の開催、追い払い用花火や動物駆逐用煙火の配付等により、集落での追い払い活動支援を行っている。獣害対策は、本市の農業振興、地域振興において重要な課題の一つと考えており、関係機関と連携を図り、地域の方々とともに取り組みを進めていきたい。



開政クラブ 板倉 操 議員

- 1 新給食センターの運営について
 - (1) 民間委託の枠を拡大することの理由や経過について
- 2 市民の移動手段の確保について
 - (1) 近鉄内部・八王子線の存続問題

質問1(1) 中学校給食用の新給食センターの運営を、調理業務も含め民間委託することは民間枠の拡大だが、小学校のセンターの運営で不都合があったのか。児童のアレルギー対応の除去食も増え、食育基本法の実践、地産地消の推進による生産者との連携等、学校給食業務を進めていく課題は増加している。栄養士・栄養教諭、調理師・調理員等の専門性の確保は、行政の役割を明確にすると共に給食への考え方や技

術の伝承する上で重要だと考える。合理化や経費削減をすれば良いと言うものではなく、ありきではなく十分な検討が必要であると思うがどうか。

答弁1(1) 昭和60年に国からの通達で合理化の必要性が指摘されている。献立作成、安全な食材確保は市側がするので支障はないと考えている。

質問2(1) 近鉄内部・八王子線について、近鉄は赤字なので存続ならば全額公費負担をと言いき、四日市市は強く反発している。「沿線には5つの高校などがあり鈴鹿市民としても見過ごせない。」と鈴鹿市自治会連合会も近鉄に要望書を提出した。公共交通を守るとの観点から鈴鹿市の考え方はどうか。

答弁2(1) 事態の推移や状況の把握に務めながら、注視していきたい。